

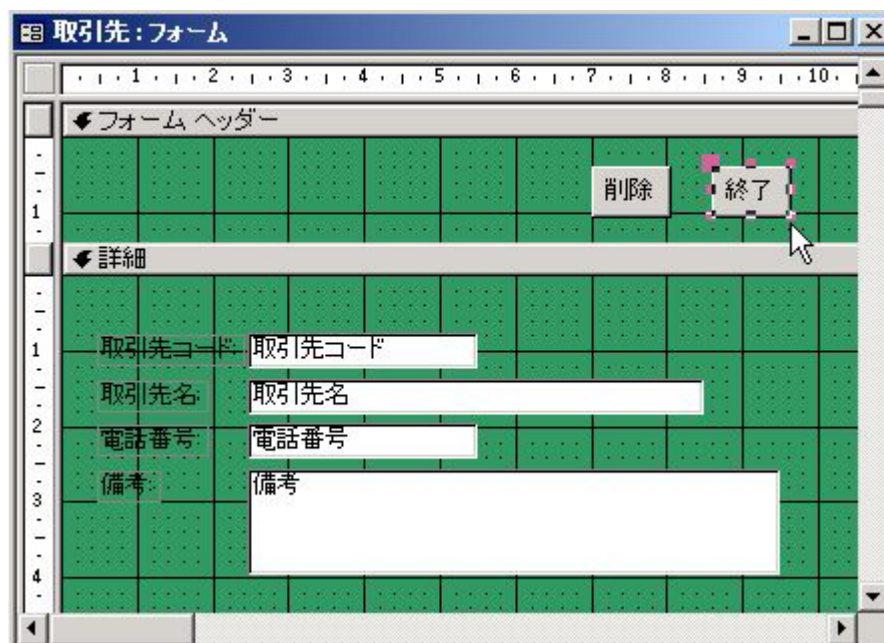
選択のできるメッセージボックスを作る

オリジナルのメッセージボックスで「はい」や「いいえ」「キャンセル」などのボタンを表示する方法を考えます。

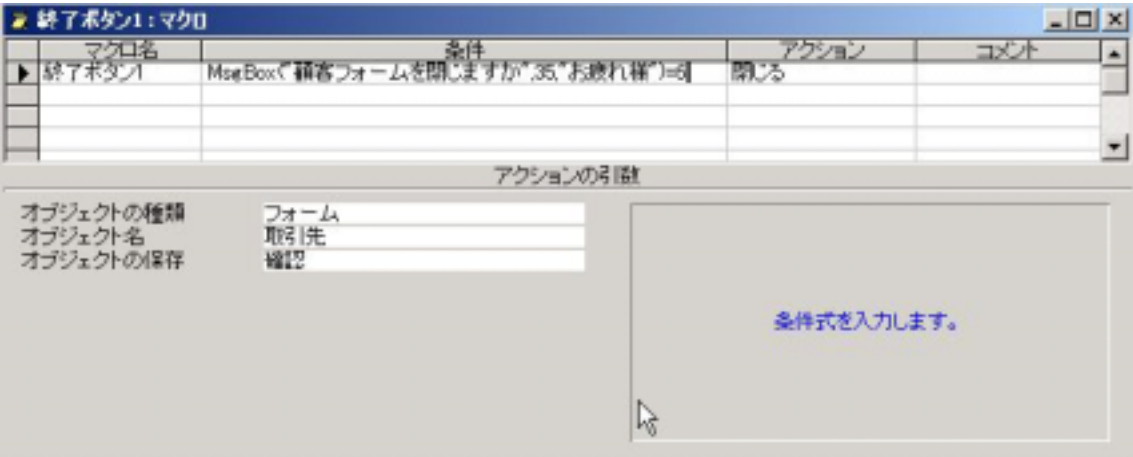
次のようなメッセージボックスを表示させる方法はマクロで簡単にできます (もちろん VBA でもできますが)。



次のような画面を閉じるボタン (コントロールボックス) を作成し、
[プロパティ]-[イベント]-[クリック時]から[ビルダの選択]-[マクロ ビルダ]を選択します。
やり方の詳細は、「マクロの作成画面」・「メッセージボックスを作る (基本)」を参照ください。



- [マクロ名]に適当な名前を記述し、
[条件]に「MsgBox(“顧客フォームを閉じますか”,35,”お疲れ様”) =6」と記述します。
[アクション]は[閉じる]を選びます。
[アクションの引数]は下記のように記述します。
- [オブジェクトの種類]: アクションの対象となるオブジェクト
 - [オブジェクト名]: アクションの対象となるオブジェクトの名前
 - [オブジェクトの保存]: オブジェクトに変更 (たとえばデータを追加した場合) 時に「確認」のダイアログボックスが表示されます。「確認」「はい」「いいえ」から選択します。



[条件]で記述する MsgBox 関数は次の書式です。
MsgBox (“メッセージ”, ボタンの種類とメッセージアイコンの種類の値の合計値,”メッセージボックスのタイトル”) = 戻り値

ボタンの種類:メッセージボックスに表示されるボタンの種類を数値で指定します。

値	メッセージボックスに表示されるボタンの種類
0	OK
1	OK、キャンセル
2	中止、再試行、無視
3	はい、いいえ、キャンセル
4	はい、いいえ
5	再試行、キャンセル

メッセージアイコンの種類:メッセージボックスに表示されるアイコンの種類を数値で指定します。

値	メッセージボックスに表示されるアイコンの種類	表示されるアイコン
16	警告メッセージアイコン	×
32	問い合わせメッセージアイコン	?
48	注意メッセージアイコン	!
64	情報メッセージアイコン	i

ボタンの戻り値:メッセージボックスのボタンをクリックすると、値が数値で戻ります。戻り値はクリックしたボタンの種類によって異なります。

値	メッセージボックスに表示されるボタンの種類
1	OK
2	キャンセル
3	中止
4	再試行
5	無視
6	はい
7	いいえ

メッセージ:メッセージボックスに表示したい文字列を記述します。半角のダブルクォーテーション(“)で囲みます。

メッセージボックスのタイトル:メッセージボックスのタイトルバーに表示したい文字列を記述します。半角のダブルクォーテーション(“)で囲みます。

ボタンの種類とメッセージアイコンの種類の値の合計値は、上記メッセージボックスのような表示をする場合、

ボタンの種類の値=3 (はい、いいえ、キャンセル)

メッセージアイコンの種類の値=32

合計値=35

ボタンの戻り値=6 (はい)

上記表の組み合わせで、好みのメッセージボックスが作れます。